



大学病院改革プランとは

自院の役割・機能について、置かれている実情等を踏まえた分析に基づいて再確認を行い、医師の働き方改革に伴う医師の労働時間適正化の推進と、大学病院における教育・研究・診療という役割・機能の維持を両立するとともに、地域社会のステークホルダーの理解の下で協働していく環境を構築することを目的として、**2029（令和11）年度までの期間（6年間）に取り組む内容を策定**したものの。

運営改革

- ・病院長のマネジメント機能の強化
- ・人材の確保と処遇改善 等

教育・研究改革

- ・臨床研修や専門研修等に係るプログラムの充実
- ・教育・研究を支援するための体制整備等 等

診療改革

- ・都道府県等との連携強化
- ・地域医療機関に対する医師派遣 等

財務・経営改革

- ・収入増に係る取組の推進、
- ・施設・設備及び機器等の整備計画の適正化と費用の抑制 等

プランに沿って安定的な経営基盤と自律的な運営体制を構築

持続可能な大学病院経営の実現、医学教育・研究の維持発展、地域のニーズに応じた診療の確保に貢献

実施状況に係る自己点検

年1回自己点検を行うとともに、その結果を踏まえた取組の更なる推進に努める。

大学病院改革プランの改定

我が国の社会情勢の変化や県の医療計画等と齟齬が生じた場合や国や県からの補助金等による新たな事業・取組を実施する場合などには適宜改革プランの改定を行う。

大学病院改革プランの公表

九州大学病院ホームページにて公表する。



○ 本院の教育・研究・診療という役割・機能について再確認するとともに、今後の改革を進める上での基本的な方針として位置付ける。改革の実効性を担保するため、病院長のマネジメント機能とともに、大学本部、医学部等関係部署等と連携した運営体制の強化や若手医師をはじめとした職員の処遇改善を図る。

① 自院の役割・機能の再確認

1) 医学部の教育・研究に必要な付属施設としての役割・機能

- ・ 高度医療の提供と研究開発の推進
- ・ より高い医療安全の追求
- ・ 地域医療への貢献と医療連携の強化
- ・ 情報技術・国際化による未来志向型医療の推進
- ・ 全人的医療を実践する医療人の育成

2) 専門性の高い高度な医療人を養成する研修機関としての役割・機能

- ・ 数多くの診療科の中から自由に研修科を選択し、高度先進医療の現場で研修可能な、医師の初期臨床研修プログラムの実施
- ・ 19基本領域のプログラムとサブスペシャリティ領域を有し、キャリアパスもスムーズに行える専門研修プログラムの実施
- ・ 地域の医療人育成への積極的な貢献
- ・ 更なる専門的な医療人の養成
- ・ 地域を含めて即座に指導的立場を担うことができる高いレベルの医療人の養成
- ・ 国際的にも活躍できる指導的人材の育成

3) 医学研究の中核としての役割・機能

- ・ 最適な医療ならびに高度医療を提供、質の高い臨床研究や治療への取組
- ・ 先端医療の実施の促進、医療安全の仕組みの強化、安全・安心な質の高い医療の提供、高度で先進的な新しい診断・治療法・医薬品の開発への貢献
- ・ 全国をリードする移植医療拠点として、これまでの実績を基盤に、移植医療を一体的に運用する診療科横断型の「移植医療センター」を整備・充実

4) 医療計画及び地域医療構想等と整合した医療機関としての役割・機能 医学研究の中核としての役割・機能

- ・ 先端医療の確保、医療DXによる「超精密医療」の実現を視野に入れた研究をはじめとする医療技術の開発
- ・ 地域医療機関との役割分担
- ・ 医療の質向上を目標とし、後方支援病院を含めた医療人を育成する体制の充実
- ・ 医師の働き方改革の推進に向けた人材確保に関する取組

② 病院長のマネジメント機能の強化

1) マネジメント体制の構築

- ・ 状況に応じた副病院長、病院長補佐の配置および担当業務の適宜検討
- ・ 病院執行部への研修会等の機会の確保

2) 診療科等における人員配置の適正化等を通じた業務の平準化

- ・ 配置スタッフ数等の適正化と柔軟な配置

3) 病床の在り方をはじめとした事業規模の適正化

- ・ 診療科の枠組みを超えた病床管理等、必要に応じた病床再編の実施
- ・ 西日本におけるがん疾患の拠点病院として一層の貢献
- ・ 福岡県の推進区域対応方針（仮称）に基づく検証、見直し

4) マネジメント機能の強化に資する運営に係るICTやDX等の活用

- ・ 診療サポート機能の強化
- ・ 患者サービス機能の向上、職員のモチベーション維持、増加及び情報イノベーションに対応するマネジメントとしてのICTやDXの活用

③ 大学等本部、医学部等関係部署との連携体制の強化

- ・ 「Kyushu University VISION 2030」に示されているビジョン「医療」に基づいた研究に関する、病院・医学研究院が一体となった推進
- ・ 「病院地区協議会」にて連携体制の強化、改革の推進

④ 人材の確保と処遇改善

- ・ 育児・介護、休職をした医師のスキルアップ、職場復帰への支援制度、保育等に関する支援、心身のケアに関する支援等の整備
- ・ 勤務管理システム等により把握した客観的なデータの活用による、財政状況等も踏まえた待遇や処遇の改善の検討
- ・ 令和6年度診療報酬改定を踏まえた賃上げの検討



- 本院の役割・機能に基づき、大学病院における医学生や大学院生に対する教育や、高度な医療人を養成するための研修、臨床研究など、教育・研究に係る環境等について、機能強化と効率化の両面からその充実に向けた以下の取組の推進を図る。

① 臨床実習に係る臨床実習協力機関との役割分担と連携の強化

- ・ 診療参加型臨床実習の更なる推進
- ・ 地域の医療機関と連携し、高度医療のみならず地域に根差したプライマリ・ヘルス・ケアを経験できる臨床実習の構築

② 臨床研修や専門研修等に係る研修プログラムの充実

- ・ 看護師の特定行為研修の推進
- ・ 認知症看護認定看護師教育課程の実習施設としての登録
- ・ 指導技法について学ぶ機会の構築
- ・ 指導医 to 研修医、指導医 to 医学生という構図だけではなく、初期研修医 to 学生、後期研修医 to 初期研修医といった指導体制の充実の検討

③ 企業等や他分野との共同研究等の推進

- ・ 民間企業との共同研究及び受託研究における受入額を一定以上獲得した教員へのインセンティブ（報奨金または研究経費）支援
- ・ 医療分野のみならず「総合知（各分野の知を融合して生み出される新たな知）」を結集した実際の社会生活の中で活用が期待できる異分野が融合した研究基盤の確立
- ・ 研究者とステークホルダーと拠点（本学）が三位一体となり、出口戦略と知財戦略、薬事戦略を駆使した、国際競争に打ち勝つ迅速な社会実装への取組
- ・ 学内の他学部との学際的な取組による、先端的医療技術となりうる健康医療データ解析モデル開発への取組

④ 教育・研究を推進するための体制整備

1) 人的・物的支援

- ・ 実臨床の中で得られる医療データを活用した臨床研究事業等へ参画させること等による高度なデータマネジメント人材の育成
- ・ 臨床研究に従事する全ての職員を対象とした「臨床研究認定講習」について、新規および更新講習の実施
- ・ 上級者コースにあたるPI（Principal Investigator）認定講習の実施によるライフイノベーション（新薬等による治療法開発、新規医療技術開拓）を推進・支援する人材の育成

2) 制度の整備と活用

- ・ 臨床研究の推進及び医学・医療の発展に貢献することを目的とした事業である高度医療人材養成拠点形成事業への着実な取組

⑤ その他教育・研究環境の充実に資する支援策

- ・ いまだに治療法が見つからない疾患に対する医療ニーズ（Unmet Medical Needs）などの重要領域における臨床研究の計画・実施
- ・ 希少疾病臨床段階シーズ（新規治療薬など医療実用化可能性のある技術）への積極的な支援
- ・ エキスパートパネルにおける医師等がリアルタイムで協議する必要のない症例について、ファイル共有サービス等を介して簡易的に評価を行う体制整備への取組



- 本院の役割・機能を踏まえ、医師の働き方改革に係る以下の取組を推進するとともに、地域全体で必要なサービスが提供されるよう、自治区や地域医療機関等との連携強化の一層の推進とともに、地域医療機関に対する医師派遣を通じた地域の医療提供体制の構築に貢献する。

① 都道府県等との連携の強化

- ・ 地域全体で必要な医療サービスが提供されるような役割分担や連携体制の見直しと方策を検討
- ・ 福岡県における医療計画の策定に寄与
- ・ 医師不足地域での医師確保、医師派遣、医師の能力開発及び向上に資する取組について検討、実現に向けた具体的な方策の提案
- ・ 感染症対策の観点から、感染症の発生予防及びそのまん延防止について検討、対策を推進
- ・ 福岡県における地域医療体制の持続的確保に向けた課題整理と情報共有を行うための協議の場（プラットフォーム）の設置

② 地域医療機関等との連携

- ・ 医療連携セミナーの開催
- ・ 地域医療機関の更なる連携強化の一環として、九州大学病院連携機関登録制度を拡充

③ 自院における医師の労働時間短縮の推進

1) 多職種連携によるタスク・シフト/シェア

- ・ 医師より医療関係職種へタスクシフトを推進するため、業務の実施に必要な研修等の受講及び安全な運用体制等についての検討
- ・ RPAの対象業務の拡大

2) ICTや医療DXの活用による業務の効率化等

- ・ ICT技術の活用や医療DXの活用による自動化やシステム化、クラウド利用などにより、医師の労働時間短縮、人的ミスの防止、質の向上

3) その他医師の働き方改革に資する取組

- ・ 勤務実績等のデータをもとに好事例・問題点などを共有し労務管理の意識を醸成、医師の労働時間短縮等に資する取組を検討
- ・ 変形労働制の医師等に複数の勤務時間帯を導入し、柔軟な勤務を実現

④ 医師少数区域を含む地域医療機関に対する医師派遣

- ・ 「人口減少・高齢化に対応した医療提供体制の維持」（福岡県保健医療計画（第8次）より）に貢献するべく、医師少数区域を含む多くの地域医療機関へ医師を派遣
- ・ 福岡県と情報共有し協議しながら、効率的な医師派遣を継続



○ 本院が掲げる「運営改革」、「教育・研究改革」、「診療改革」を実現するための財源確保を含め、収支改善や経営の効率化等に係る以下の取組を推進し、将来にわたり持続可能な病院経営の実現を図る。

①収入増に係る取組

1) 保険診療収入の増加

- ・ 地域に根付いた医療機関を目指すためにも、病床稼働の維持・増加、平均在院日数を短縮
- ・ 関連医療機関との連携強化、モバイル戦略等の広報活動の強化
(完結型から分化型を重視した診療体制を構築)

2) 保険診療外収入の獲得

- ・ 外国人患者の診療費をはじめとした私費診療費の見直し
- ・ 老朽化対策、患者サービス向上を含め、特別療養環境室料の見直しを実施

3) 寄附金・外部資金収入の拡充

- ・ 情報発信、渉外活動により基金を拡充、企業等との組織対応型連携を拡大

②施設・設備及び機器等の整備計画の適正化と費用抑制

1) 施設・設備・機器等の整備計画の適正化

- ・ 新たな感染症や災害等の不測の事態が発生した場合においても医療活動が継続可能な大規模改修計画を検討
- ・ 将来構想に基づく医療機器等の整備計画を策定。
共同利用が可能な設備は一括管理するなど、限られた資源の有効活用

2) 費用対効果を踏まえた業務効率化・省エネルギーに資する設備等の導入

- ・ 適切な設備容量の見直し、E S C O事業の導入検討等、高効率設備の導入を推進

3) 導入後の維持管理・保守・修繕等も見据えた調達と管理費用の抑制

- ・ 施設設備・機器等の整備に当たっては、必要性や緊急性、ランニングコストも含めた費用対効果を検証。レンタル・リースの採用や共同調達での整備も検討

③医薬品費、診療材料費等に係る支出の削減

1) 医薬品費の削減、診療材料費の削減

- ・ 医師、看護師など医療関係者で必要性、安全性及び経済性を検討し採用品目を決定。定数配置、運用方法の見直しにより在庫管理を徹底
- ・ 他機関との共同調達、ベンチマーク、市場調査を踏まえた購入コストの削減。契約手続きの見直しにより、円滑な価格交渉を実施

2) その他の支出の削減

- ・ 業務委託については、業務内容の適正化、費用対効果の検証。質の担保については管理監督部署と立ち入り検査等を実施

④その他の財務・経営改革に資する取組等

- ・ 病院経営分野における高度な実務能力を有する実務家教員をはじめ、医師、看護師等のコメディカル職員、事務職員と連携した多職種協働の検討体制
(経営戦略センター)により、現場の実情に即した実効性の高い施策を検討・実施し、持続可能な経営基盤の確立を図る
- ・ 病院経営に関する様々な指標のベンチマークや本院の立ち位置等の分析を継続して実施、執行部や診療現場(医師・看護師等)と共有し、経営意識を醸成

⑤改革プランの対象期間中の各年度の収支計画

- ・ 改革プラン対象期間(R6~R11)の各年度の収支計画を策定。経営環境の変化を踏まえ必要に応じて見直し